

# 三佐校区 歴史マップ

参勤交代の歴史が伝わり  
人形山車の祭りで  
にぎわう港の街

## 歴史散策モデルコース1 (1区・2区)

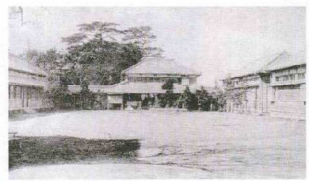
### 1 太刀振神社

当初は祇園社として板屋町に祀られていましたが、明治14年12月、現在地の広小路に移転。同時に、竹田市津田原の中川神社御分霊を合祀して、社号も太刀振神社と改められました。祭神は、素佐鳴尊(スサノオノミコト)を主神とし、中川清秀、中川秀政、中川秀成の中川神社御分霊三柱が祀られています。三佐の住民には御記宮(おしみや)の俗称で親しまれています。



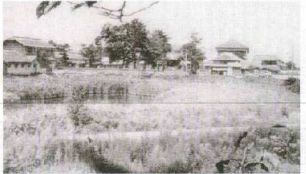
### 2 御茶屋敷跡・旧三佐小学校跡

江戸時代の寛永10年(1623年)から明治のはじめまで、三佐と海原は竹田岡藩の領地で、参勤交代のための港町として栄えました。参勤交代の折、岡藩主中川侯が宿舎として利用したのが御茶屋敷です。御茶屋敷の跡を明治7年(1874年)1月~昭和41年(1966年)3月9日まで三佐小学校として利用していました。その後、小学校は移転し、現在は、大分市の「なかよしプール」となっています。



### 3 丸川跡

御茶屋敷の前には、当時、岡藩の船着場である丸川がありました。岡藩主中川侯の御座船「住吉丸」が出入りし、御座船用の船殻もありました。昭和37年(1962年)に埋立て、小学校の運動場になりました。現在は、マンションが建ち、当時の姿を忍ぶことはできません。



### 4 梵音山 海潮寺

慶長3年(1598年)より以前に、現在3方面の薬師堂のある場所に、月浦和尚によって創建されました。承応年間(1652年)、中川久盛侯のとき、堂宇が手狭になったことから、浦町の現在地に移転。奉られていた薬師如来を海潮寺に、千手観音が本尊として安置されました。



### 5 霧林山来迎院 尋声寺

大分市錦町の来迎寺住職頼空宅岸によって、大分市今鶴(現在の今津)に創建されましたが、元和年間(1615~1623年)に三佐浦町の現在地に移転しました。本尊は阿彌陀如来。岡藩中川家と関係が深く、墓地には、柴山両賀をはじめ、中川家家の墓が多く立っています。



この地図は200年前の三佐の地図をもとにイラスト化したものです。



御座船紋章 (尋声寺・海潮寺・太刀振神社)  
岡藩主中川侯が参勤交代に使った御座船「住吉丸」などの船体に付けてあった「中川柏」と「中川久留子(クルス)」の丸い紋章が三佐の寺社に奉納されています。特に、中川の紋章を寺紋として許された尋声寺には、多く紋章が貴重な文化財として保存されています。

### 柴山両賀・勳兵衛の墓 (尋声寺墓地)

柴山両賀は、もとは足利将軍直隸の家臣でしたが、後に中川侯に仕え、中川侯が竹田岡藩に移された折、自らの私財をなげうって船団を組みました。その功もあり、柴山家は代々岡藩の船奉行を務めました。勳兵衛はその嫡貴子で、尋声寺墓地に2人の墓が並んで立っています。



木本橋梁の墓 (尋声寺墓地)  
明治時代の画人。江戸末期の文政11年(1828年)三佐板屋町に生まれ、18歳のとき竹田の森崎谷について水墨画を学び、後に京阪や長崎を遊歴し、技を練りました。明治21年(1888年)60歳で亡くなっています。三佐校区公民館に作品の一つが飾られています。

### 6 浄華山 円光寺

浄土真宗本願寺派  
僧了照によって大分市津留に創建されましたが、元和年間(1615~1623年)に三佐浦町の現在地に移されました。当初は円龍寺と称されていたが、寛文年間(1661~1672年)に現在の名前が改められました。本尊は阿彌陀如来。



### 7 愛宕社

寛永元年(1620年)、豊前求菩提山の修験僧・慧観法師に神示があり、海原に祀られました。その後、何度も大洪水にみまわれ、社殿が流出。元治元年(1864年)6月、現在地の仲町にあった堅正院というお寺の中に再興されました。明治になって神仏分離となり、仏教関係のものは安養寺に移され、社号も愛宕社と改められ、現在に至っています。祭神は鎮火の神といわれる加具土神(カグツチノカミ)です。



### 8 弥栄川の常夜燈

船の出入りを誘導し、「海上闇夜東西を失ひし時」の燈台、これが常夜燈です。三佐には何カ所か常夜燈がありましたが、現存しているのは堀川緑地公園の中にある、この1基だけです。江戸末期の天保15年(1844年)の年号が刻まれています。

### 9 龍神社

縁起は不明ですが、新町の住民が鎮守様として、大切に祀りし、お世話しています。海原天満社の春の大祭では、御神輿の御旅所となります。



### 10 久世ヶ瀬跡

乙津川はもともと、龍神社の下の久世ヶ瀬で、西川と弥栄川の2つに分かれていました。ところが船着き場は町並みがある弥栄川沿いに設けられていたため、西川に石積みの渡しを設ける土木工事を行い、川の水が弥栄川に多く流れるようになりました。現在でも引き潮のとき、当時の名残である台石を、乙津川の中に点々と眺めることができます。

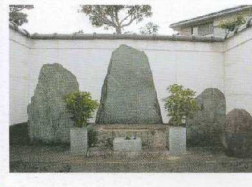
### 11 福聚山 安養寺

開基年月は不明ですが、僧梅浦によって海原の現在地に創建されたといわれます。一時は衰退していましたが、慶長14年(1600年)に、僧春花によって中興されました。本尊は阿彌陀如来。



### 12 庚申塔

海原黒石にある庚申塔。「奉待梵釈二天王」と彫つてある真ん中の一番大きな塔は寛永20年(1643年)という江戸時代初期の年号が彫られています。他に尋声寺、野坂神社、太刀振神社にも庚申塔があります。ちなみに現在でも三佐では、1月に集まり厄払いをする風習が残っています。



### 13 海原天満社

菅原道真を祀り、古くから海原の鎮守様として崇敬を集めています。創立年月は不詳。大祭には山車が御輿のお供をして新町の龍神社まで御神幸が行われ、御輿が社殿に遷御すると、境内で角力や催すのが例となっています。



## 歴史散策モデルコース2 (3区・4区)

### 14 薬師堂

天正年間(1573年頃)、大友氏の家臣であった御手洗佐渡など数人の武士が、薬師如来を本尊として安置し、本堂を開いたといわれます。この御堂が海潮寺の前身です。



### 15 野坂神社

神社の始まりは、永正年間(1504~1520年)、弥孫次という三佐の漁夫が、沖で漁をしているとき、光輝く雲石が網にかり、これを熊野権現として祀ったとも、また、熊野権現の御分霊を頂き、お祀りしたともいわれています。その後、貞享元年(1684年)に岡藩主が江戸から下向の際、四国沖で嵐に遭い、熊野権現に祈願したところ、嵐がおさまって無事に帰国できたことから、神殿などを造営し、中川家代武運長久祈願所となりました。現在の御祭神は、速玉男尊、伊弉冉命、事解男尊の三柱です。春の大祭には、人形山車が多数繰り出し、街中を練り歩きます。



### 岡藩船三佐入港船絵馬 (野坂神社境内)



文化10年(1813年)3月、第十代岡藩主中川久貴侯が、海上安全祈願のため、野坂神社に奉納された絵馬です。参勤交代の帰途、大阪から船で瀬戸内海を航海し、いよいよ三佐の港に入るときに藩主の乗った御座船の様子が描かれています。平成3年、大分市指定有形文化財に指定されました。

### 神楽殿 (野坂神社境内)

野坂神社の神楽殿は、明治32年、当時大分県一の腕利きと言われた三佐出身の棟梁・幸政治郎さんの手により建てられました。場所や柱、屋根、瓦1枚に至るまで、当時のままの姿です。皆さんの趣意で建てた傑作といわれています。



### 大ソテツ (野坂神社境内)

野坂神社の境内にある3本の大ソテツ。樹齢は400年以上たっており、参勤交代の折、海上安全祈願に訪れた岡藩主中川侯が植えたのではないかとされています。昭和49年に大分市名木に指定されました。



### 16 備中街道

備中(岡山藩)の学者・熊沢蕃山が竹田藩の招きで三佐を訪れ、治山治水のため丸川から新港まで土手を築き、松を植えたと言われます。かつては、野坂神社の祭典に練り込みでにぎわいました。蕃山の出身地にちなんで備中街道と呼ばれています。



### 17 野坂神社御旅所

野坂神社大祭の御神幸祭のとき、神輿が休憩する場所。昔は、御旅所の前は川に降りることのできる砂浜で、裏は松林でした。



### 18 半田翁之頌徳碑

半田鎮三郎は三佐漁協の初代組合長。三佐海苔養殖発展の功労者であり、三佐海苔の名前を全国に広めました。円光寺墓地の南側に碑が立っています。



### 19 幸政治郎の墓

三佐大工の総棟梁で全国的に有名な建築家・幸政治郎の墓が円光寺墓地の北側にあります。弟子は200人以上といわれ、大分県各地の神社仏閣、官庁、病院、旅館などで三佐大工の名前を残しました。明治時代、福沢諭吉と同時代人。

### 20 遠見山

江戸時代、三佐を船着場とした竹田中川藩参勤交代の御座船をはじめ、三佐沖を航行する船の標識として灯台が建てていました。木造二層の灯台で、遠く国東半島、佐賀関まで望まれたといわれています。山上や麓には、金比羅様の祠や三佐漁協の碑などが建っています。



### 21 金比羅社

海上安全の神・讃岐金比羅社の御分霊で、昔から三佐漁民の崇敬が厚いが由緒不詳。境内にある地蔵様は火伏せ地蔵といわれ、遠見地区は昔から大火がありません。



## 歴史散策モデルコース3 (5区)

### 22 家島天満社

家島天満社は、鎌倉時代末期の永徳元年~3年(1381~1383年)の頃、時の守護職・大友十代修理大夫親世の創建と言われています。現在の社殿は昭和55年(1980年)に新築されました。祭神は菅原道真公。境内には大正5年(1916年)に合祀した祭神が三社あり、本殿に向かって右奥に作ノ神社、左奥に恵比須社、左横に金比羅社が祀られています。



### 23 クジラの墓

明治33年(1900年)10月中旬、別府湾で操業中の漁民がクジラを発見。家島の漁民に応援を求めてきたので、全漁民総出で生け捕りにしました。新町の浜で大衆に見物させていたのですが、衰弱して死んだので、供養のために墓を建てたといいます。



### 24 家島波止場

江戸時代より昭和初期の頃まで、家島漁民の生活を支え、特に朝夕は活気にあふれていました。臨海工業地帯埋め立てとともに漁民が陸上がったことから、廃れてしまい、港が新築されて以降は遊漁船の溜まり場となっています。



### 25 観音堂

天正の頃(1573~1591年)、房前権四郎金久という者が、ある日、家島の沖で漁をしていたが、いつもと違って網が重く、ようやく引き揚げてみると、光明を放つ観音像が掛かっていたとか。持ち帰って草堂を建て、安置したと伝えられています。

### 26 任屋敷跡

安土桃山時代末期の慶長6年(1601年)から明治のはじめまで、家島は白杉稲葉藩の所領であり、大野川を水運で運ばれる稲葉藩の物資の集散地として栄えました。家島を治めた野上庄屋は臼井藩五十二組庄屋の筆頭格、三十六石五斗扶持取りで、屋敷の西側に中船入りという専用の港を所有していたといわれています。現在の家島西児童公園付近の一角が野上庄屋の敷地跡です。

### 27 野上家先祖の供養塔

旧臼井藩の御蔵跡地に村中の墓を集めたのが現在の共同墓地。その一角に、「大乗妙典一字一石」と記された野上家先祖供養塔があります。



### 28 渡し場跡地

現在の家島墓地の南側に、乙津、寺地浜、志村に渡る渡し場がありました。江戸時代前期より昭和初期にかけて築かれていたが、三佐、小中島間に橋が架かること次第に消滅してしまいました。また、現在の家島大橋の下には、上船入りという所に三佐渡し場がありました。この渡し場跡地の南側には、文禄元年(1592)大友吉統が、豊後の武士を率いて朝鮮に出兵した際の城跡がありました。

